

箱根雑感

広報部奥村元

今年は、10月に関東甲信越地区計量団体連絡協議会が箱根湯本で開催されます。そこで箱根についてこれまでの経験や研修会のルートを調整するなかで初めて知ったことなどを交えて雑駁ですが書いてみたいと思います。

記憶に残っている最初の箱根は、入社翌年に会社の慰安会で仙石原に泊まったのが最初だと思います。その後何度か湯本温泉に宿泊してゴルフとセットになった慰安会を経験しています。公共交通機関を利用して集まりやすのがメリットでしょうか。

個人的なドライブでは、東名御殿場インターから仙石原湿性花園に行つて箱根新道で小田原に降りて小田原厚木道路で戻るコースが印象に残っています。若いころは温泉で湯治するというのはあまり考えませんでした。最初にこのルートで帰宅する時は小田原厚木道路に入るところを間違えて西湘バイパスに入ってしまった。

箱根神社が、観光スポットではもっとも歴史があるようで奈良時代中期までたどれます。駒ヶ岳の山頂にある箱根神社元宮は行ってみると拝殿を奉納したのは堤康次郎とあり、箱根園からのロープウェイが西武系なのでかつてあった西武と小田急(東急)の箱根山戦争に勝つためのひとつ象徴だったのででしょうか。山頂からは小田原から相模湾が一望できます。いずれの社殿も神山を拝礼の対象としているとのこと。

また江戸時代五街道のひとつ旧東海道が日本の大動脈であったころに箱根の関所は重要な役割をはたしていました。現在は関所が再現されて見ることが出来ます。

大涌谷は現在立ち入りが制限されていますが、黒たまごは芦ノ湖に近い仮店舗で販売をしています。芦ノ湖周辺を初めとして箱根は樹木に恵まれて緑が想像以上に深かったです。これが紅葉シーズンには色彩を一変させて楽しむことが出来ます。

近年の箱根駅伝の隆盛で毎年正月は箱根の旅館が満員とのことで距離が長い分広範に箱根を潤しているすぐれた観光コンテンツだと思います。かつて私は、横浜新子安のそばで復路をよく見ていました。箱根駅伝のコースと並行して走る箱根登山線も趣があります。塔ノ沢と大平台の間の出山の鉄橋は、現存する日本最古の鉄橋です。

また仙石原、芦ノ湖付近にはガラスの森美術館など多くの美術館があります。昨年は、噴火活動の影響で観光客総数は減少したようですが、外国人観光客

は 7 割増だったようです。新宿などと違って西洋系の観光客も目にすることが多いです。

いろいろと紹介してきましたが、読むだけでは箱根の素晴らしさを実感できないでしょうから皆様も是非 10 月の協議会、研修会に参加して下さい。改めて箱根の魅力に触れることが出来ると思います。